



持続可能な国際競技力向上プラン検証

2024年11月20日

公益財団法人日本オリンピック委員会

JOC Vision 2064と中期計画



日本・世界が大きく変化する将来においても、変わらずに JOC が追い求め続ける「ありたい姿」

JOC Vision 2064

活動指針

スポーツの価値を守り、創り、伝える

オリンピックが浸透している社会の実現
憧れられるアスリートの育成
スポーツで社会課題の解決に貢献

JOC中期計画2022-2024全体像



持続的な国際競技力向上プランに関する施策の 方向性と具体的な施策・取組

基本的な方向性と現状

(1) アスリートの発掘・育成・強化の取組のシステム化・プログラム化

本会は、国の交付金に基づく、選手強化NF事業を軸にNF支援を行い、選手強化（主に強化指定選手・ネクスト強化指定選手）、強化スタッフの育成及び支援を行っている。

選手強化本部では、オリンピック競技大会毎の対策プロジェクトに加え、選手強化中長期戦略プロジェクトを立ち上げており、その中のアスリートWGにて、憧れられるアスリートの育成・支援に向けたシステム化・プログラム化に取り組んでいる。例えば、オリンピック日本代表選手から学ぶ選手育成・強化支援の手引きを大会毎に作成し、NFに対して情報共有を行っている。

(2) 居住地域等にかかわらず全国でスポーツ医・科学、情報等によるサポートを受けられる環境の実現

(拠点ネットワーク事業で一部記載)

(3) 地域における競技力向上を支える体制の構築など、国と地方の競技力向上施策の連携強化

JOC認定競技別強化センターを通じたNF強化活動支援を実施している。

具体的な施策・取組

1. NFによる選手強化活動の基盤の確立・強化

(1) 戦略的な選手強化の実施に向けた支援

①強化戦略プランの実効化支援

2016年から始まった協働コンサルテーションが8年のサイクルを経て、強化戦略プランの策定と実現に一定の成果が表れている。他方、NFでの戦略プランの策定が、強化責任者などの一部メンバーに限られているNFが見受けられ、NF内で現場のコーチへのプランの共有と浸透が必要であり、各競技で一体となった強化体制の構築を促進させる。

また、選手強化中長期戦略プロジェクトにおけるアスリートWG・指導者WG・データ＆テクノロジーWGが、多面的な支援を行うべく着実に進捗させている。

②メダル獲得最大化のための重点支援

JSCと実施している夏季・冬季オリンピック競技の協働コンサルにより、NFの選手強化プランの実現を支援している。競技団体交付金事業や選手強化NF事業では、毎年NFの評価を実施しており、その評価結果に基づいた配分を行っている。

大会ごとに設置される対策プロジェクトでは、参加競技NFとOne on One（個別）ミーティングを複数回実施し、競技結果最大化のための支援を行っている。また、パリ2024対策プロジェクトにおける大会準備施策や大会本番での一体感醸成、そしてコミュニケーション戦略は、すべてNFの強化戦略プランを実現するための支援である。

冬季大会に関しては、北京2022大会の成果を引き続き、ミラノ・コルティナ2026（MICO26）でも達成できるよう、MICO26対策プロジェクトを立ち上げ準備を始めている。

【施策・取組】選手強化中長期戦略プロジェクト（全体）

選手強化中長期戦略プロジェクト

成果

選手強化中長期戦略プロジェクトでは、人口減少等によるスポーツを取り巻く環境変化の中でも、持続可能な強化・育成を推進していくため、アスリートエコシステム（社会に対して憧れを醸成し、人材・資金が循環するモデル）の形成をめざし、アスリートの活躍機会拡大、指導者の育成や環境整備、データを活用した強化基盤の確立に取り組んできた。アスリートの活躍機会拡大として、主にアスリートアカデミーを通じた学びや交流の機会を創出し、参加したアスリートからは高い評価を得ている。指導者においては新役職制度を適用し、ハイパフォーマンズディレクター（HPD）の設置やJOCにスマネージャーを置いてNFとの対話の機会を創出してきた。これによりNF間の交流機会が増加し、HPDによる強化基盤サポートを行ってきた。データWGではデータ活用による強化活動支援のためのプラットフォーム（JOC365）構築に向け、計画を立案し、人材確保等の準備を進めている。

課題

重点施策推進のため指導者WG、アスリートWG、データ＆テクノロジーWGで分かれて活動をしているが、主に人的リソースに限界があるため、進捗はしているものの活動が十分に行えていない取り組みもある。これら重点施策以外でも、今後はJOC強化戦略プランの策定と運用、競技別強化拠点の機能活性化及び最大活用、国際総合競技大会の在り方の検討、競技団体評価基準の再構築と運用など、取り組むべき課題も多い。これら課題を解決するために、より機動的な組織体制の構築やJOC事務局とのさらなる連携、推進、専門人材の確保などが必要と考える。

また、JOCに存在する各アカデミー（ナショナルコーチアカデミー、エリートアカデミー、キャリアアカデミー）と指導者育成方針、アスリート育成方針などの共通認識を持って取り組めるよう、対象カテゴリーが共通する既存事業とのさらなる連携も欠かせない。加えて、JOC内外で関係組織同士が連携してアスリートの活躍機会創出を検討し、取り組むなど横断的支援について積極的に取り組む必要がある。

選手強化中長期戦略プロジェクトの各WGのアクションプラン

WG名	主なアクションプラン
アスリート	アスリートアカデミー運用（オリエンテーション、研修会）
	既存アカデミーとの連携強化
	本格運用に向けた組織体制及びプログラム構築
指導者	指導者の自己成長支援
	指導者同士の協力連携と推進
	HPD/HPADの活動支援と連携推進
	指導者へのサポート環境の最適化
	指導現場におけるウェルビーイングの促進
	中長期コーチングの最適化の検討
データ & テクノロジー	個人情報取扱並びに事務効率化の継続実施
	関係ステークホルダー（JSC等）や医療等のデータ連携を継続検討
	競技別強化拠点とのデータ連携検討

【施策・取組】選手強化中長期戦略プロジェクト アスリートWG

選手強化中長期戦略プロジェクト アスリートWG

成果

アスリートWGではJOCの活動方針に掲げられている「憧れられるアスリートの育成支援」のため、アスリートアカデミーを中心とした学び、交流の機会を創出してきた。アスリートアカデミーでは競技力、人間力、キャリアの3つの柱を軸に義務研修となるオリエンテーションと自由参加型研修を年間を通じて実施してきた。より早期から学び、交流の機会を創出できるよう、オリンピックネクスト強化選手を指定し、対象範囲も拡大した。アスリート同士の交流や現役アスリートの実体験を知ることが有意義であるなどのフィードバックをもとに、トップ選手との交流の場や、パリ五輪に参加しているアスリートが選手村から発信する機会なども企画した。また、選手からのアンケートも行っており、社会貢献活動への参加に興味を持っているが、参加の機会が少ないなどの回答も得られ、こうしたアスリートの現状把握や、それに対応した企画立案ができることも成果であると考えている。

課題

アスリートアカデミーにより学び、交流の機会を創出できているものの、プログラムとして体系的に取りまとめ、実行できているわけではないので、今後はこうしたプログラムを制度化し取り組んでいく必要がある。また、そのためにもアスリートWGでの人的リソースや予算についての課題がある。また、オンライン中心で行っているが、対面で実施することでより訴求できるプログラムがあると考えているが、そうした参加機会確保に課題があるため、十分に実施できていない。そのため、オンデマンド教材の作成などの検討も行っている。今後JOC内の様々なイベントと協業するなどJOC組織内での連携を密に行い、ひとつずつ実現していきたい。加えて、JOC内の既存アカデミーともこれまで意見交換を行ったり情報共有を行ったりしているが、方針を一致させ、組織としてさらに連携していく必要がある。最終的にこうした取り組みを社会還元していくことを目標としているため、NF独自アカデミーや外部組織のアスリート育成などとも連携を模索しながら、本取り組みの活動を発展させていきたい。

【施策・取組】パリ対策プロジェクトとコミュニケーション戦略

パリ対策プロジェクトとコミュニケーション戦略

成果

パリ対策プロジェクトは、東京2020大会が終了後の2021年12月に立ち上げ、①早めの準備を開始した。メンバーは、競技のカテゴリ毎に代表者を選出し、TEAM JAPANとして、②新しい価値の創出（広義的な視野）を目指し、JSCやパートナー企業をはじめ我々の活動に賛同いただける団体など、③関係組織との連携を通じ、様々な施策を実践した。例えば、パリ大会に向けては④各NFとのコミュニケーション深化のため、NFと1 on 1（個別）ミーティング実施回数を過去大会より増やし、細部のニーズ分析と要望に沿う対応を検討し対処した。

パリ大会では、JOCコミュニケーション戦略のコンセプト「一歩、踏み出す勇気を。」に、選手強化本部として「共に更なる高みへ」を掲げ、TEAM JAPAN一体感の醸成を図り、国外開催大会で最多の金メダル獲得につながった。コミュニケーションアプリを利用したTJ Infoを利用したデジタル化による情報共有や、TEAM JAPAN Café、JOC-G Road Stationなどアスリートがコンディションを高めつつ、リラックスできる環境を準備することで、アスリートが最大限のパフォーマンスを発揮した。

課題

パリ大会で一定の成果を上げることはできたが、LA2028大会に向け、また直近のミラノ・コルティナ2026大会に向けて、①関係機関との更なる連携強化（特にスポーツ庁、JSC、JOC、NF間の連携）が必要と認識している。

他国・NOCがの多くが次の大会に向けた初動が早く、引き続き好成績を残すためには、更なる連携と選手団サポートの充実を図ることが肝要である。②JOC事務局内の更なる横連携の強化も行い、NFからの要望の吸い上げを緻密に行い、TEAM JAPAN全体でサポートできる体制・仕組みを構築するべきである。なお、大会に向けては、③更なる早期の準備開始（組織編制、関係機関との連携、予算などの確保、選手村、HPSCなどの視察など）が喫緊の課題である。他国・NOCは、次大会に向けたプロジェクトや取組の初動が早く、4～6年程度のスパンで実施しており、LA2028に向けて出遅れは否めない。様々な制約があるなかで北京、パリで最大限の成果を上げているとはいえるが、今後、メダル・入賞者数の維持・拡大を目指すためには、大会直前の準備・大会中のコンディショニング等のサポート含め、アスリートにベストな環境を提供するための体制・仕組みの構築が必要。

パリ2024対策プロジェクトとコミュニケーション戦略



パリ2024対策PJとは？

各NFや関係組織を含めたハブとなり、情報収集、共有をもとに全体の方向性を示すとともに、必要な支援を行いながらNF横連携とTEAM JAPANの一体感の醸成を図った。

日本代表選手団の編成・活動

- ✓ 編成の在り方（団長、副団長、旗手他）
- ✓ 結団式、壮行会の在り方
- ✓ アクレディテーションカードや各手続き等の改善

成果

- ✓ TEAM JAPAN 一体感醸成
- ✓ 国外開催最大の金メダル及び総メダル数

プロジェクトの発足（2021年12月～）

- ✓ 各NFの現状とニーズの把握
- ✓ 現地調査準備

2022

アンケート・ヒアリング

NF強化戦略プラン

2023

日本代表選手団の目標設定

NF横連携とTEAM JAPANの一体感醸成とNF連携

- ✓ TEAM JAPAN Building up Paris 2024開催（全体オンラインMTG）
- ✓ 指導者＆スタッフのNF横連携
- ✓ アスリート支援組織（アスリート委やアントラージュ部会等）との連携
- ✓ 現地の関係組織（大使館等）との連携

2023.4 JOC-NFパリ現地調査

2023ラグビー・ワールドカップ

2022アジア競技大会（トライアル）

2024



+ 共に更なる高みへ

- 選手村内・外のサポート機能・拠点の検討および事前合宿の場所・施設選定等の支援、JSCとの連携
- 時差・気象等コンディション対策、メンタルケア、感染症対策、新種目支援等含めた情報・医・科学支援
- パリ（仏国内）で開催される国際大会に関する情報収集と共有、スポンサー、パラとの連携など

TEAM JAPAN Support in Paris



選手村

TEAM JAPAN HOUSE

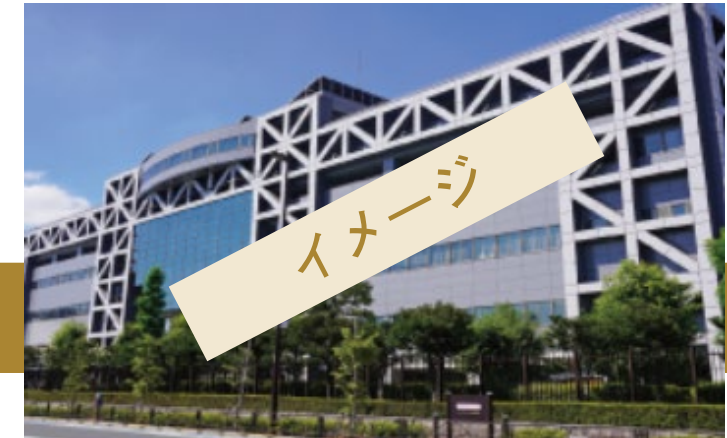


- ・メダリスト記者会見
- ・SNSスタジオ
- ・ミーティングポイント
- ・ホスピタリティ
- ・ショーケーシング
- ・JOC村外オフィス



- ・居住棟
- ・メディカルサポート
- ・TEAM JAPAN Café
- ・JOC選手団本部オフィス
- ・ウェルフェアオフィサー相談室
- ・ミーティングルーム
- ・トレーナールーム（貸出）
- ・TEAM JAPAN（TJ）Info による情報提供

HPSC in Paris（JSC）



- ・ハイパフォーマンスサポート
- ・コンディショニングサポート
- ・栄養サポート
- ・JSCオフィス

パリ2024 総括概要

- ①日本選手団の金メダル数（20個）、総メダル数（45個）は、ともに**国外大会では過去最多**
- ②柔道、体操、フェンシング、レスリングで金メダル16個、総数28個⇒**日本の基幹種目の活躍が目立った**
- ③これまでメダル獲得がなかった**10種目**で**初のメダル獲得**

（男子ゴルフ、男子スポーツクライミング、男子フェンシングエペ個人、女子フルーレ団体、女子サーブル団体、男子クライミング、飛込、近代五種、陸上・槍投げ、ブレイキン）

アーバンスポーツのメダル獲得（スケートボード、ブレイキン、スポーツクライミング）に加えて、92年ぶり（馬術）、20年ぶり（セーリング）、レスリング女子最重量級で初、男子グレコローマン40年ぶり、フリースタイル最軽量級制覇は36年ぶりなど ⇒**メダル獲得競技数 16 は国外大会では過去最多** ⇒**メダル獲得競技・種目の広がり**

- ④14歳（スケートボード・吉沢）～48歳（馬術・大岩）の**幅広い年齢層のメダリスト誕生**
- ⑤若い世代も活躍（10代のメダリストは7名（吉沢、赤間、開、張本、安楽、松下、玉井）、岡（20歳）、藤波（20歳））⇒**東京2020と同傾向**
- ⑥入賞数は過去5大会（東京除く）78～88 → 115へと大幅増⇒**ポテンシャル競技・アスリートの増大**

パリ2024 総括概要（2）

- ⑦ **団体球技全7競技**(11チーム)出場は、フランス以外で日本のみ⇒**団体球技の底上げ・出場からメダルへが課題**
(サッカー、ラグビー、バレーボール、バスケットボールは男女とも、ハンドボール男子、水球男子、ホッケー女子)
- ⑧ **2連覇**は、柔道（阿部（66kg）、永瀬（81kg））、スケードボード（堀米（ストリート））男子3名
- ⑨ **オリンピック2連覇に挑んだ女子は全員、金メダルを逃した**（阿部詩（柔道女子52kg級）、素根輝（柔道女子78kg超級）、大橋悠依（競泳女子200メートル個人メドレー）、須崎優衣（レスリング女子50kg級）、四十住さくら（スケートボード女子パーク））
⇒**レベルアップが激しく容易には勝てない（2連覇できない）**
- ⑩ 目標に向かって全力で取り組み卓越したパフォーマンスと、相手への敬意と友情を示してくれたTEAM JAPANは憧れるアスリートとしての理想像を体現してくれた。日本や世界に「一歩、踏み出す勇気を」与えることができた。
- ⑪ ロシアは、東京2020時に選手336名を派遣し、メダル71個を獲得。（金20、銀28、銅23：レスリング8（金4）、フェンシング8（金3）、射撃8（金2）、体操8（金2）、ボクシング6（金1）、競泳5（金2）、テコンドー4（金2）、テニス3（金1）、AS 2（金2）、陸上2（金1）など）
今大会パリでは15名を派遣し、メダル1個（テニス（銀））のみ。その影響は無視できない。

【施策・取組】北京2022及びミラノ・コルティナ2026

北京2022対策プロジェクト及びミラノコルティナ2026（MICO26）対策プロジェクト

成果

北京2022

メダル総数（過去最多、金3、銀6、銅9）、入賞総数（過去最多の平昌大会と同数、43）

主要競技NF代表者数名から構成されたプロジェクトチームで大会準備を進めた。

コロナ対策の専門官（CLO）の監督のもと、感染を抑えた環境でパフォーマンスを発揮できた。

課題

ミラノ・コルティナ2026に向けて

全実施競技のNF代表者から対策プロジェクトを構成T。

分散して開催される競技会場クラスターごとに必要となるサポートを検証を開始している。

議論にはJSC（HPSC）、パートナーからも参加し、早期から連携を開始している。

広域にわたる競技会場に分かれるTEAM JAPANを、パリ2024の経験から一体感醸成を実現できるよう、コミュニケーション戦略の継承なども検討。

候補選手を集めたチームビルディングを大会前シーズン終了後に計画しており、準備段階からTEAM JAPAN一丸となって大会に臨む。

具体的な施策・取組

1. NFによる選手強化活動の基盤の確立・強化

(2) コーチ等の育成・配置充実

競技力向上事業（コーチ等設置事業）において、コーチ等の育成・配置を行っており、2022年に仕組みを刷新し、NFのニーズに即した事業を行っている。

従来から実施しているナショナルコーチアカデミー（NCA）事業は着実な成果を上げており、パリ大会で参加した役員のうち、NCA修了者が約50%を占めるまでになった。また、選手強化中長期戦略プロジェクトにおける指導者WGでは、コーチ等設置事業を多角的に考察・改善に取り組んでおり、主にハイパフォーマンスディレクター（HPD）をターゲットとし競技間の情報共有を行い、互いを高め合うフォーラムなどの機会を設けている。現在NCA事業と指導者WGの協働を検討しており、それぞれの役割を明確化するなかで、コーチの育成を進める。

(3) 競技団体の組織基盤の強化

競技力向上事業（選手強化NF事業）における強化費の配分を行うことでNFの基盤強化に資する支援を行うとともに、競技団体交付金事業やNFジョイントマーケティングプログラムを通じ、NFの諸活動における財政的な支援を行っている。

また、選手強化中長期戦略プロジェクトのデータ＆テクノロジーWGにおいて、大会派遣におけるNF及び本会の情報基盤整備のためのTop Sports Database（TSDB）を導入し、選手の個人情報管理をデジタル化かつ一元化することで業務効率化を実現している。

【施策・取組】ナショナルコーチアカデミー事業（NCA）

ナショナルコーチアカデミー事業（NCA）

成果

- パリ2024大会に関し、同大会におけるTEAM JAPANの成果に貢献できたと考えられる。
- ・ TEAM JAPANの監督及びコーチにおけるNCA修了者の割合が増加した（東京：38.8%⇒パリ：48.3%）
- ・ JOCパリ対策プロジェクトメンバー10名のうち9名がNCA修了者（1名は情報医科学担当有識者）。

NCAでは、「パリ2024に向けて」をテーマに受講者と修了者合同研修を2回（2023年7月・24年3月）実施し、JOCにおけるTEAM JAPAN動向や各NFの取り組みを共有した。また、通常のプログラムにおいても、「強化戦略プラン」の重要性を鑑み、受講者が今後HPD、強化責任者に着任する可能性を踏まえて、強化戦略プランの作成ができるようになることを目標の一つとした。その前提として、思考スキル等のプログラムを基盤とする上で、各NFのマネジメント又はナショナルコーチのコーチング事例を紹介し、またJSCとも連携することでJISSの情報医科学情報を共有することができた。

課題

パリ2024大会において、監督・コーチにNCA修了者がいない競技種目があった。

この背景としては、本アカデミーを義務付けている「ナショナルヘッドコーチ」及び「ナショナルチームコーチ」が本務のため受講時間が確保できない等を理由に、受講できない、エントリーしていない、またはNFが計画的なナショナルヘッドコーチ・チームコーチの配置をしていない等の現状がある。

NCAでは日本スポーツ協会（JSPO）コーチ3資格者を受講資格として、基礎知識があることを前提にしている。JSPOコーチ3専門科目を実施していないNFや未加盟団体があるため、イレギュラーな対応が続いている競技がある。

今後、受講しやすい環境の検討（現在でもオンライン参加を可能としているが、一部オンデマンド導入の可否等）とともに、NFにはNCA受講依頼及びJSPOコーチ3専門科目設置など引き続き周知を継続する。また、更なるコーチの質的向上に繋がるサポートができるよう、JOC他事業とより連携を促進する。

JOCナショナルコーチアカデミー事業

パリ2024大会関連報告：NCA修了者実績/TEAM JAPAN割合

コース		修了者		パリ(2024)		東京(2020+1)		北京(2022)	
				NCA 修了者数	全体の割 合	NCA 修了者数	全体の割 合	NCA 修了者数	全体の割 合
正規コース		485名							
特別移行措置 コース		97名		チームリー ダー	9/16 56.3%	4/15 26.7%	1/3 33.3%		
外国籍コーチ 向けコース		86名		監督	21/34 61.8%	29/54 53.7%	4/5 80.0%		
合計		668名		コーチ	65/144 45.1%	75/219 34.2%	27/54 50.0%		
				総務	4/24 16.7%	7/46 15.2%	0/10 0%		
				技術スタッ フ	2/21 9.5%	3/28 10.7%	0/12 0%		
				合計	101名	118名	32名		
				監督・コー チ割合	86/178 名 48.3%	106/273 名 38.8%	31/59名 52.5%		

※別途本部役員及び選手に修了者あり

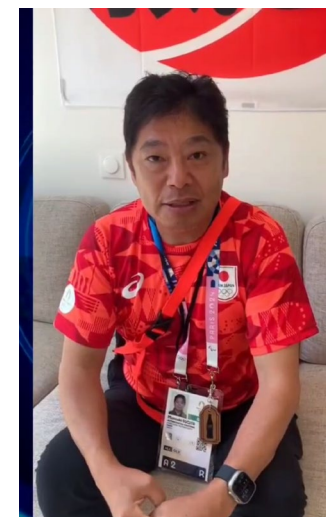
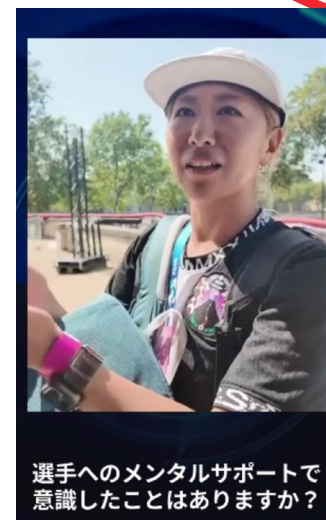
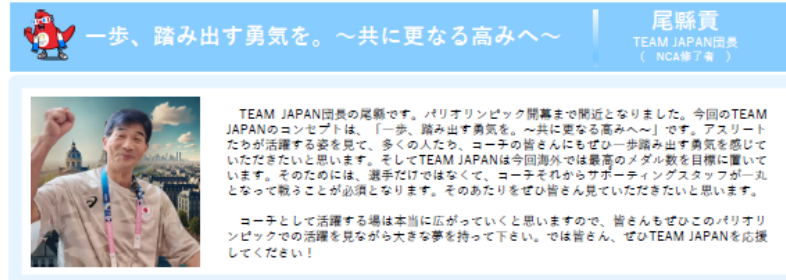
JOCナショナルコーチアカデミー事業 パリ2024大会関連報告：期間中の活動

1. NCAニュースレターの刊行



2. NCA公式 LINEオープンチャットの開設

NCAフラッシュニュースの制作・送付



JOCナショナルコーチアカデミー事業

TEAM JAPAN 選手団役員構成

オリンピック競技大会 過去4大会のTEAM JAPAN 役員構成比較

監督・コーチの女性の数、外国籍役員の数、NCA修了生の数の状況

	大会	人数	人数のうち 女性数	女性割合 (%)	人数のうち 外国人数	外国籍割合 (%)	人数のうち NCA修了生数	NCA 修了割合 (%)
監督・ コーチ	ロンドン2012	134	16	11.9	13	9.7	29	21.6
	リオ2016	147	23	15.6	19	12.9	38	25.9
	東京2020	271	40	14.8	52	19.2	103	38.0
	パリ2024	178	21	11.8	31	17.4	86	48.3

- 監督・コーチのNCA修了者は、48.3%と増化傾向にあり、監督のみとした場合には61.8%が修了しておりパリの成果に結びついた。益々のNCA受講者増加を目指す

【施策・取組】コーチ等設置事業・ハイパフォーマンスティレクター

コーチ等設置事業

成果

1. 各NFのハイパフォーマンスティレクター（HPD）が中心となり作成された強化戦略プランを実行するための強化体制として、コーチ等設置事業において認定されたコーチ等が計画的かつ継続的に強化活動を行うことができた。
2. HPD制度が設定されて3年目となるが、選手強化中長期戦略プロジェクト_指導者WGを通じた取組みにより、HPDとJOCに設置しているハイパフォーマンスマネージャー（HPM）およびサービスマネージャー（SM）との協力連携により選手強化中長期戦略プロジェクトの方向性を共有、またNF（HPD）間の横連携を積極的に促進させることにより、様々な成功事例など情報共有が可能となり、個々の強化戦略プランや競技力の向上につながった。

課題

1. コーチ等設置事業補助金を計画的に活用できていないNFもあるため、強化戦略プラン作成段階から、精度の高い強化計画が求められる。協働コンサルチームによるサポートも、より細かな視点からの指摘が求められる。
2. NF内のHPD自体の認知度とその役割に関する理解度がまだ低いことから、JOC内外のネットワークやメディアを通じて、HPDの役割などのプロモーションを行うことにより、HPDが動きやすい組織体制の適切化を図る必要がある。
3. HPDの業務負荷が増すことから、ハイパフォーマンシアシスタントディレクター（HPAD）を設置しているNFが全体の50%いる一方で、残りの50%はHPADを設置していない。コーチ等設置事業補助金の範囲内での設置を検討する上で、現場の指導者を増やすのか、HPADを設置するのかがNF判断が問われる状況も考えられる。HPM、SMへの相談やNF間連携による情報を活用する等、判断材料の収集が必要になる。

【施策・取組】選手強化中長期戦略プロジェクト 指導者WG

選手強化中長期戦略プロジェクト 指導者WG

成果

「憧れられるアスリートの育成」をより効果的継続的に推進していくために、指導者育成及び指導者体制の整備を行った。その具体策として以下の4つが成果として挙げられる

1. 新コーチ設置制度の運用を開始

各NFに新たにハイパフォーマンスディレクター（HPD）、必要に応じてハイパフォーマンスアシスタントディレクター（HPAD）を設置した。NFに共通の役職が設けられた事により、JOC側に新たに設置されたハイパフォーマンスマネージャー（HPM）およびサービスマネージャー（SM）との協力連携がより強化されている。

2. HPD/HPADを中心としたコミュニティづくり

指導者WGの共通テーマ「対話と共創」を掲げ、HPD/HPADとの個別面談の実施、HPD/HPADフォーラムの開催、HPD/HPAD CAFE（オンラインワークショップ）の運用を行うことで、NF間の横連携を促進させ、様々な情報共有が可能となり、中長期戦略プロジェクト全体の方向性を共有できた。

3. 指導者の学習機会の提供

HPD/HPAD、ナショナルチームコーチ（NTC）、ナショナルヘッドコーチ（NHC）、ナショナルチームスタッフ（NTS）向けのワークショップやアンケートを実施し、各人の自己研鑽の支援、およびTEAM JAPANとして必要な知見や情報を共有した。

4. 指導者サポート機能の検討

指導者が抱える様々な悩みや課題を收集整理し、どのようなサポート機能が既に存在し、新たに必要なサポートは何かを検討した。

課題

共通のテーマ「対話と共創」を掲げ、HPD/HPADを中心としたコミュニティづくりを行ってきたが、まだまだNF内/対外的にも、HPD/HPAD自体の認知度とその役割に関する理解度が低い。NFの事務局側は、もちろんNFによっては競技現場のステークホルダーもほとんど知らないこともある。今後は、JOC内外のネットワークやメディアを通じて、HPD/HPAD自体のプロモーションを行うことにより、HPD/HPADが動きやすい組織体制の適切化を図りたい。

また、指導者の学習機会の提供に関しては、これまで数々の指導者育成の実績と多様な指導者を生み出してきたナショナルコーチアカデミー（NCA）との連携を図るため、目的の共有化と相互の役割整理を行う。

指導者サポート機能については、すべての課題を対処するのではなく、ますます複雑化・多様化している指導者が抱える悩みや本音を引き出し、指導者WGとして支援すべき課題を特定することが求められる。

JOC指導者育成の方向性

ナショナルコーチアカデミー（NCA）との連携に向けた検討

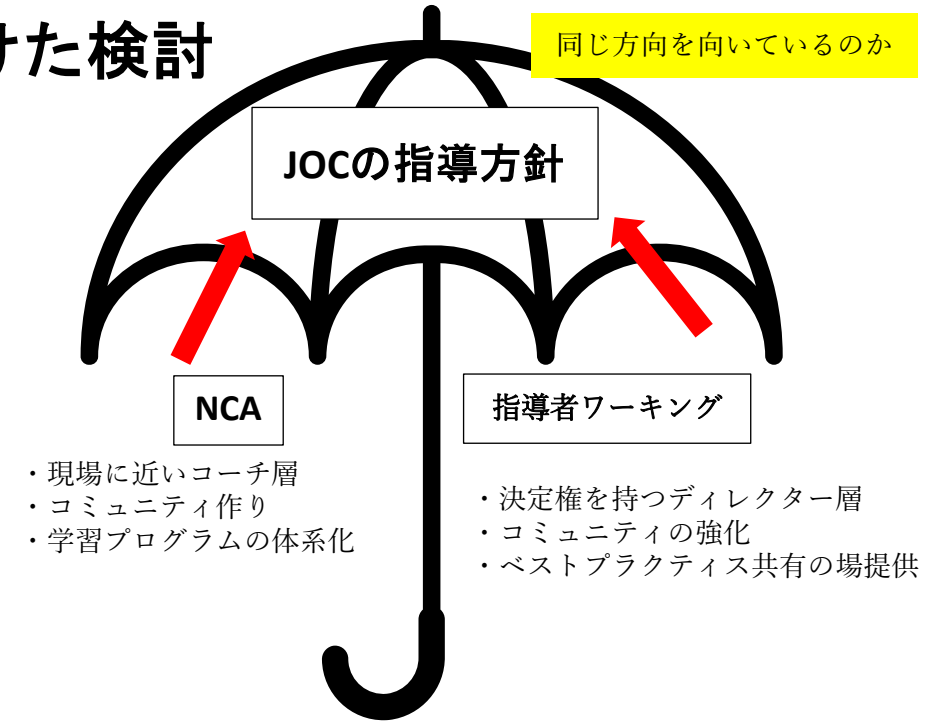
NCAと指導者WGの役割分担（案）

■NCA：指導者育成機能

- トップ指導者の指導力向上に向けた学習提供
- トップ指導者全体のコミュニティづくり（卒業生含む）
- ・指導者全体に関するニーズ把握と共有

■指導者WG：ディレクション機能

- ・中長期プラン（ミラノ・コルティナ、LA以降）に基づくディレクション
- ・現役HPD/HPADを中心としたコミュニティづくり
- ・現場/現況に基づくニーズ把握と共有
- ＊指導者WGが未知/未来の課題を認識・探求し、NCAが理系化し、より多くの指導者を育成していく基盤となる。



実施事例（抜粋）

アスリートアカデミー（自由参加形研修会）
期日：1月25日、場所：NTC、テーマ：競技間交流



指導者 HPD・HPADフォーラム（2023年）
期日：10月24日、場所：JSPO、テーマ：対話と共創



実施事例（２） HPD・HPADフォーラム（2024年）

ハイパフォーマンスディレクター、ハイパフォーマンスアシスタントディレクターを対象に、
2024年度HPD・HPADフォーラムを実施

期日： 9月27日

目的：一つの正解を求める議論ではなく、各HPD/HPADの立場から、互いの考え・意見を発信共有しあい、
視野を広げ、本音・本気で話すことで、HPD/HPAD同士の距離感を縮めること

内容

1. 新HPD/HPADの紹介、アイスブレイク、趣旨説明
2. 井上康生HPMによるパリオリンピックの総括
3. パリオリンピックに関する指導者アンケート結果共有
4. パリオリンピックにおけるHPD/HPADの活動事例共有
5. ケースディスカッション

ケース1：コンプライアンス対応（不祥事対応と意思決定）

ケース2：アクレカードについて（パリを踏まえた意見交換）

ケース3：SNSに関するJOC/NFの対策（誹謗中傷/炎上に対する対応策）

ケース4：パリ対策プロジェクトのTeamJapan活動（成果と課題の共有）



実施事例（２） HPD・HPADフォーラム（2024年）

2024年度HPD・HPADフォーラム
アンケート回答者数：23名

4.80
満足度平均評価

フォーラムに参加し「印象に残ったワードや気づき・学びになったこと（一例）」

様々なNFの課題、大会準備は視野を広げるいい機会となりました。

事前準備、現地とのつながり、SNS対策プランが重要であると学べた。

セーフガーディングオフィサーの役割は今後も重要になると感じた。

事前準備、オリンピックに向けた各NFの取り組みが非常に勉強になりました。

コンプライアンスの事象に関して、ケースを想定するよりも、何か起きた際の連絡ツールを明確にしておくことで迷わないことを学んだ。

フェンシングの青木HPDの「いつも通りに臨む」というキーワード。

各NF皆様の事例紹介において共通していた内容として、情報戦略含めてだと思いますが「事前準備」が挙げられていたことが印象的でした。

他競技団体の取り組みに数多くのヒントが隠されていると感じた。

【施策・取組】選手強化中長期戦略プロジェクト データ & テクノロジーWG

選手強化中長期戦略プロジェクト データ & テクノロジーWG	
成果	①JOC365：日本代表等の個人情報一元管理し、本会がマスターキーを担う事で権利もととなり関係団体・民間等の多様なデータシステムとのAPI連携を実現。⇒データのDX化はスポーツ界全体やJOCを取り巻く環境からみても必要性は総論一致、各論で様々な課題あり。WGでは選手・指導者の貴重な個人情報の保管方法（国内サーバー型or海外クラウド型）の選定や、選手・指導者・NFを含む利用者だけではなく、競技力向上に貢献できるシステム設計やAPI連携へ向けた検討・協議を行った。今期は「計画から実行」へ進み、開発に向けたテクノロジーポリシーの構築、ベンダー選定、発注まで進行している。 ②トップスポーツデータベース：個人情報の取扱並びに事務効率化の継続実施 ⇒大会派遣手続きを含めたNF⇄JOC間の事務手続きのデジタル化を推進し、さらなる効率化を目指し運用中。現在はクラウドサービスを利用して運用おり、今後のJOC365とのAPI連携や汎用性も想像しながら運用を推進。 ③JISSnxとの連携：アスリートや指導者が客観的な視点や対戦相手等の比較から競技力向上をデータで支援 ④電子カルテとの連携：アスリートや指導者のバイタルデータを国内外の遠征で閲覧・病気や怪我等の現状と過去データの比較や迅速な判断や対処を支援。 ⇒③④共に重要なシステムであり、JOC365との連携へ向けて協議を行った結果、汎用性の高いプラットフォームの開発に重きを置き、早期の連携実現は保留という判断した。固有のシステム用にカスタマイズされたデータ設計は、サーバーやクラウド選定に偏りを生む可能性があり、多方面とのAPI連携を実現させることが中長期的な利益につながると判断した。 ⑤競技別強化拠点ネットワーク構築：拠点とデータ連携を実現し、HPSCと地方拠点が連携することでスポーツリソースの最大化支援を行う。 ⇒競技別強化拠点は、設備などの施設環境や行政との地域連携、種目特性などに違いがあるため、今期は3箇所の視察兼機能強化協議会へ参加。また令和6年度競技別NTC合同MTGに参加し、全国の拠点担当者と意見交換や課題共有、ネットワーク構築の足掛かりとなる情報交換を実施。
課題	上記の通り、現在①～⑤の各パートを並行して進行中。数年間検討・検証を重ねる中で、③④など早期実施を保留にしたケースもあるが、開発後の維持管理などコスト面も含めて検討した結果の判断。まずは選手・指導者・NFの個人情報や競技力データ情報を一元管理するため、JOC365デジタルプラットフォームの開発を実現することに注力する。同時に国際大会派遣で活用しているトップスポーツデータベースは、引き続き事務効率化へ貢献できるよう、アンケート収集や情報ツールとしても今後拡張する。 今後対応する課題：「データ保管先の選定（国内・海外クラウド）」「テクノロジーポリシーの構築・JOC365の開発を請け負うベンダーの選定」「トップスポーツデータベースとのデータ連携（マイページ設計含む）」

具体的な施策・取組

2. パスウェイに基づく地域と一体になったアスリートの育成

(1) 強化戦略プランに基づくアスリート育成パスウェイの構築

国際競技力向上及びオリンピックをはじめとする国際競技大会で活躍できる選手を安定的に輩出する施策の一環として、中央競技団体（NF）の一貫指導システムと連携したJOCエリートアカデミーを実施している。

(2) 地域における競技力向上を支える体制の整備

オリンピック有望選手研修会を開催し、地方で活躍する次世代を担う有望選手を集め研修会を開催。
（昨年度で終了）

【施策・取組】JOCエリートアカデミー事業

エリートアカデミー事業

成果

以下のデータから、中高生時代に競技力・人間力の土台を築くエリートアカデミーの取り組みが、競技力の向上とその維持に貢献したと考えられる。（以下、パリ大会に出場したレスリング、卓球、フェンシングに限定）

- ✓ 総メダル数45個のうち、7個（金2、銀1、銅4）15.6%をアカデミー修了者が獲得（東京大会時は9%）
- ✓ パリ大会に出場した8名のアカデミー修了生のうち、7名88%がメダル獲得（東京大会時は50%）
- ✓ 東京・パリと2大会連続出場した選手14名のうち、5名35.7%がアカデミー修了者
- ✓ 東京・パリと2大会連続メダル獲得した選手全6名のうち、2名33.3%がアカデミー修了者

課題

- ① より多くのオリンピック・メダリストを効率的に排出することが今後の課題であり、アカデミーの特性を考慮しつつ競技団体と連携してFTEMを踏まえたアスリートパスウェイを構築することや、地域と連携した発掘から育成・強化への円滑な移行に取り組む。
- ② 持続可能な国際競技力向上に向けて、いまだメダル獲得に至っていない競技・種目のメダル獲得も課題となる。メダルを獲得した競技団体もアカデミー設立からメダル獲得まで10年以上の年月がかかっていることから、アカデミー事業に関心のある競技・種目に対して、既存競技団体の知見を活用しながら10年先を見据えた強化戦略プランの構築とアカデミーの設立に向けた総合的なサポートを検討する。
- ③ 初めてオリンピックに出場した年齢について、アカデミー修了生は他のTEAM JAPAN選手のオリンピック初出場年齢よりも低年齢（1～2歳程度）であることが明らかとなり、社会への対応を含む人間力の向上や心理面でのサポート強化が課題である。競技に安心して健康に取り組めるよう、適切な教育プログラムの実施やウェルフェアオフィサーを含むアントラージュの改善に積極的に務める。
- ④ HPSCで練習ができない競技・種別のアカデミーの充実や新規立ち上げへの支援が課題である。地域と一体となったアカデミー事業構築のための支援や、デジタル技術を活用してHPSCでのデータや知見の共有、TEAM JAPANとしての交流を推進する。

JOCエリートアカデミー事業

パリ2024大会出場アカデミー修了生の成績

競技	入校期	名前	フリガナ	性別	出場	成績
レスリング	6期生	須崎 優衣	スサキ ユイ	女	2回目	女子50kg級 3位
レスリング	9期生	鏡 優翔	カガミ ユウカ	女	初	女子76kg級 優勝（最重量級初）
レスリング	11期生	尾崎 野乃香	オザキノノカ	女	初	女子68kg級 3位
卓球	6期生	平野 美宇	ヒラノ ミウ	女	2回目	女子シングルス 5位／女子団体 2位
卓球	9期生	張本 智和	ハリモト トモカズ	男	2回目	男子シングルス 5位／混合ダブルス 9位／男子団体 4位
フェンシング	4期生	高嶋 理紗	タカシマ リサ	女	初	女子サーブル団体 3位（日本初）
フェンシング	7期生	江村 美咲	エムラ ミサキ	女	2回目	女子個人サーブル ベスト16／女子サーブル団体 3位（日本初）
フェンシング	7期生	永野 雄大	ナガノ ユウダイ	男	2回目	男子フルーレ団体 優勝（日本初）

リザーブ

競技	入校期	名前	フリガナ	性別	在籍中学校	在籍高等学校	
卓球	10期生	木原 美悠	キハラ ミユウ	女	北区立稲付中学校	星槎国際高等学校	
卓球	13期生	松島 輝空	マツシマ ソラ	男	星槎中学校	—	

- エリートアカデミー生の関連競技では9名（3競技）が出場しメダル7（金2銀1銅4）、入賞3となり、過去最高の成績であった。着実にエリートアカデミーの成果がみられる。

具体的な施策・取組

3. アスリートへのスポーツ医・科学、情報等による支援の充実

(1) スポーツ医・科学、情報等による国際競技力向上のための研究・支援の推進

① HPSC におけるスポーツ医・科学、情報等の研究・支援の充実

選手強化本部内に情報・医・科学専門部会及びアンチ・ドーピング専門部会を設置し、JSC（JISS）やJADA等の関係機関との連携により、アスリートへのスポーツ情報・医・科学情報の提供を行っている。また、コーチ会議及び情報・医・科学合同ミーティングを開催し、最先端の情報をNFに提供し、アスリート支援を行っている。

② NTC 競技別強化拠点における機能強化

NTC拠点ネットワーク事業として、東京北区にある味の素NTCに加え、国により指定された「ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点」との連携により、国際競技力向上のためのトレーニング環境を整備している。「冬季競技」、「海洋・水辺系競技」、「屋外系競技」、「高地トレーニング」、「パラリンピック競技」の合計44施設（令和6年10月現在）が指定され、各競技の選手強化活動のため、トレーニングや科学・医学・情報サポートの環境及び体制の高機能化やネットワークの強化、マネジメント体制の整備などが行われている。各拠点では、地域の医療機関との連携も推進している。

③ 大学等と HPSC との連携による我が国のスポーツ医・科学研究の推進と人材育成

JSCのHPSCネットワーク推進事業との連携を進め、地域の医科学サポート体制の強化を図っている。

拠点ネットワーク推進事業

拠点ネットワーク推進事業

成果

競技別NTCを持つ競技において、東京2020大会ではメダル2競技（銀2）、入賞7競技（10）であったが、パリ2024大会ではメダル7競技（金2・銀6・銅2）、入賞8競技（17）と大幅に増加した。これは競技別NTCを一部ではあるが有効活用したことによる成果である。冬季競技においては、ほぼフルに活用され、北京2022大会の成績につながっている。

一方で競技別NTCの指定を受けている中央競技団体（NF）、施設／行政は定期的に人材が変更となっているため、NTC事業が担当者変更の度にゼロスタートになることが懸念されているが、本会が年に一度スポーツ庁協力のもと、事業説明会を実施することで関係者からは理解促進に繋がったなどの感想をいただいている。また、定期的に機能強化協議会の開催を促し、競技別NTCの現状・課題・要望を共有、解決のためのサポートを実施している。これによりNFや施設・行政間との連携が密になり、円滑な事業運営に寄与している。

また、月に2回、HPSCや競技別NTCでの情報、TEAM JAPANの取組み等をNTC News Letterというニュースレターにして関係者に配信している。本ニュースレターには、各競技の合宿や講習、医科学サポート、購入機器、地域連携など強化活動にも繋がる情報を掲載している。これにより、各競技が定期的に様々な活動や情報を得ることができるよう、有用であると評価を得ている。

課題

競技別NTCの指定施設が増加し、アスリートの国際競技力向上のためには競技別NTCの機能強化が重要な要素となっているが、「何をどう機能強化したらよいかかわからない」などの声の関係者から多く挙がっており、他競技別NTCなどの参考になる情報が欲しいという要望が多数寄せられている。そういった競技においては、競技別NTCを持っているNFが競技別NTCのグランドデザインを未作成、未共有による目指すべきゴールが一致していないことが多い。それらを解決し、より効果的・効率的な強化活動から継続した国際競技力向上を目指すため、NTCとして目指すべき機能や環境を様々な情報を基に提供していく。なお、本会主催の競技別NTC合同ミーティングにおいて他競技別NTCなどの情報提供を実施したことから、自身の競技別NTCでも参考にしたい、との声が多数あり。すでにそれらを基に新たに着手し始めている競技別NTCもある。

今後も継続して競技別NTCに関する情報提供や本会における情報・医・科学専門部会等の情報をかみ砕き、関係者に共有することで競技別NTCの機能強化に寄与していく。

拠点ネットワーク推進事業 競技別NTC関係競技のパリ2024大会結果（入賞者詳細）

メダル獲得：10
（馬術、近代五種、ゴルフ、スポーツクライミング、
スケートボード、セーリング、水泳／飛込）

競技	種別	順位	選手名
馬術	総合馬術団体	3位	大岩義明、北島隆三、戸本一真、田中利幸
近代五種	男子	2位	佐藤大周
ゴルフ	男子	3位	松山英樹
スポーツクライミング	男子B&L	2位	安楽宙斗
スケートボード	男子ストリート	1位	堀米雄斗
	女子ストリート	1位	吉沢恋
		2位	赤間凜音
	女子パーク	2位	開心那
セーリング	混合470級	2位	岡田奎樹、吉岡美帆
水泳／飛込	男子高飛び込み	2位	玉井陸斗

入賞（4位－8位）：17
（サッカー男女、自転車（トラック・BMX）、馬術、ゴルフ、
スポーツクライミング、スケートボード、サーフィン）

競技	種別	順位	選手名
サッカー	男子	5位	小久保玲央、ブライアンほか
	女子	5位	山下杏也加ほか
自転車（トラック）	男子ケイリン	4位T	中野慎詞
	男子チームスプリント	5位	太田海也、小原佑太、長迫吉拓
	男子スプリント	6位	小原佑太
		7位	太田海也
	男子マディソン	5位	今村駿介、窪木一茂
	男子オムニウム	6位	窪木一茂
馬術	総合馬術個人	5位	戸本一真
		7位	大岩義明
ゴルフ	女子	4位T	山下美夢有
自転車（BMX）	フリースタイル	5位	中村輪夢
スポーツクライミング	女子B&L	4位	森秋彩
スケートボード	男子ストリート	4位	白井空良
	女子ストリート	7位	中山楓奈
	女子パーク	8位	草木ひなの
サーフィン	男子	5位	稲葉玲王

拠点ネットワーク推進事業 競技別NTC関係競技のパリ2024大会結果（入賞者）



メダル獲得：2 競技別NTC
（自転車、ゴルフ）



メダル獲得：7 競技別NTC
（馬術、近代五種、ゴルフ、
スポーツクライミング、
スケートボード、
セーリング、水泳／飛込）

大会	東京2020	パリ2024
メダル：NTC数（個数）	2（2）	7（10）
入賞：NTC数（入賞数）	7（12）	8（27）

競技別NTC関連競技では、メダル10個、入賞17（11競技）の成績であり、
ハイパフォーマンスセンター関連競技ではメダル34個（8競技）となり、
競技別NTC及びハイパフォーマンスセンターの活用と機能強化が貢献したといえる。

◆中核拠点関連競技のパリ2024大会結果

メダル 34(金17, 銀6, 銅11, 8競技)

陸上競技(1) 北口榛香(1位:女子やり投げ)

競泳(1) 松下知之(2位:男子400m個人メドレー)

体操競技(4) 男子団体(1位)、岡慎之助(1位:男子個人総合、鉄棒、3位:平行棒)

レスリング(11) 文田健一郎(1位:男子グレコローマン60kg級)、日下尚(1位:男子同77kg級)

樋口黎(1位:男子フリースタイル57kg級)、清岡幸太郎(1位:同65kg級)、高谷大地(2位:同74kg級)

須崎優衣(3位:女子フリースタイル50kg級)、藤波朱里(1位:同53kg級)、櫻井つぐみ(1位:同57kg級)

元木咲良(1位:同62kg級)、尾崎野乃花(3位:同68kg級)、鏡優翔(1位:同76kg級)

卓球(2) 女子団体(2位)、早田ひな(3位:女子シングルス)

フェンシング(5) 男子フルーレ団体(1位)、加納虹輝(1位:男子エペ個人)、男子エペ団体(2位)、

女子フルーレ団体(3位)、女子サーブル団体(3位)

柔道(8) 永山竜樹(3位:男子60kg級)、阿部一二三(1位:同66kg級)、橋本壮一(3位:同73kg級)、永瀬貴規(1位:同81kg級)

村尾三四郎(2位:同90kg級)、角田夏実(1位:女子48kg級)、舟久保遥(3位:同57kg級)、混合団体(2位)

バドミントン(2) 女子ダブルス(3位)、混合ダブルス(3位)

ロンドン2012大会:メダル35(11競技)

リオ2016大会 :メダル40(10競技)

東京2020大会 :メダル40(11競技)

◆中核拠点関連競技のパリ2024大会結果

ロンドン2012大会:入賞37(13競技)
リオ2016大会 :入賞41(13競技)
東京2020大会 :入賞51(16競技)

入賞 51 (14競技)

陸上競技 (10) 、競泳 (12) 、アーティスティックスイミング (2) 、テニス (1) 、ボクシング (1) 、
バレーボール (1) 、体操競技 (7) 、レスリング (1) 、ウエイトリフティング (2) 、卓球 (3) 、
フェンシング (2) 、柔道 (5) 、バドミントン (2) 、アーチェリー (2)

具体的な施策・取組

3. アスリートへのスポーツ医・科学、情報等による支援の充実

(2) 全てのアスリートが健康に競技を継続し、最大のパフォーマンスを発揮できる環境の整備

① 女性アスリートが健康に競技を継続するための環境整備

該当なし (JSCのアンケート支援実施)

② 心理面での支援の充実

強化指定・ネクスト強化選手への研修にてウェルフェアや誹謗中傷に関する研修を行っている。

また、東京2020大会をきっかけにアスリートのメンタルヘルスへの注目が高まり、北京2022大会以降、IOC主催大会においてはウェルフェアオフィサー（メンタルヘルス、心理サポート、セーフガーディング）を設置し、大会直前及び大会中のアスリートの心理面で支援を行っている。

この他、今後も増え続けるとされる若年層（とくに10代前半）のアスリートの支援の充実

TEAM JAPAN 選手団構成

オリンピック競技大会 過去4大会の日本代表選手団比較

選手の女性の数、メダル獲得数の状況

	大会	人数	人数のうち 女性数	女性割合 (%)	メダル獲得数	メダル獲得数 のうち女性種目 (混合除く)	メダル獲得数のうち 女性種目割合(%) (混合除く)
選手	ロンドン2012	293	156	53.2	38	17	44.7
	リオ2016	338	164	48.5	41	18	43.9
	東京2020	583	277	47.5	58	30	51.7
	パリ2024	424	198	46.7	45	17	37.8

※ 交替選手含む

具体的な施策・取組

4. パラ競技の国際競技力向上とオリ・パラ連携の促進

本会及び日本パラリンピック委員会（JPC）は、常に情報共有を行い、連携促進を図っている。
パリ2024大会では、JSCと協力しての選手団長会議情報の提供や、選手村内の諸情報の提供を通じ、パラリンピック選手団の大会準備、選手団運営に寄与した。

国際スポーツ情報の一元化及び効率的・効果的な共有及び活用の推進が、パリ大会をきっかけにJSC、JPC、JOCの間で始まり、今後さらに促進することが期待される。

また、JISS/HPSCの活用においても、JSC・JPC・JOCが合同で協議を行い、アスリートファーストの環境を整備すべく検討している。

